和光大学 × まなたび

和光大学 2022年度 連続市民講座

# 日常と非日常をつなぐ 美術の楽しみ方

**10月14日（金）、10月21日（金）、10月28日（金）、11月4日（金）**

各　　回　18:30－20:30
会　　場　和光大学 ポプリホール鶴川 多目的室
〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷1-2-1（詳しくは裏面の地図をご覧ください。）
定　　員　36 名（先着順）
受 講 料　全4回 2,000円 ／ OPクレジットカード会員価格 1,800円
※ 学生は無料

## 1. 10月14日（金）
桃山の時代精神と現代
半田 滋男　和光大学芸術学科教授

## 2. 10月21日（金）
頂点を極めた後、美術はどこへ向かったのか？：マニエリスム期の美術
久保寺 紀江　和光大学非常勤講師

## 3. 10月28日（金）
1960年代 ― 高揚する日本戦後前衛芸術
細谷 修平　和光大学客員研究員

## 4. 11月4日（金）
北斎 ― 90年の画業の軌跡
山本 ゆかり　和光大学非常勤講師

町田市共催事業／（一財）町田市文化・国際交流財団共催事業／川崎市教育委員会連携事業

## 1. 桃山の時代精神と現代

日本の文化史上でも華やかな時代であった桃山文化。狩野永徳、本阿弥光悦、千利休など今に名を残す芸術家が多く活躍しました。その時代精神は実は先鋭的であり、現代人も大きく学ぶべきところがあります。

狩野永徳《唐獅子図屏風(右隻)》(桃山時代)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

### 半田 滋男 HANDA Shigeo

和光大学芸術学科教授。専門は日本現代美術。笠間日動美術館(茨城県)、千葉市美術館などで学芸員をつとめてきた。その間、近現代美術を中心とした展覧会を多く企画。また、美術関係の批評も数多く執筆する。和光大学では、主に芸術のしくみに関する授業を担当している他、学生と一緒に小田急多摩線「黒川駅」周辺で野外展「サトヤマアートサンポ」を開催している。著書(監修および執筆)に『新・アートの裏側を知るキーワード』(美術出版社)、共著に『日本の20世紀芸術』(平凡社)など。

## 2. 頂点を極めた後、美術はどこへ向かったのか?:マニエリスム期の美術

イタリアでは16世紀前半、美術は一つの頂点を迎えていました。盛期ルネサンスです。ミケランジェロ、ラファエッロらが登場し、自然はあるがままに再現され、美術がこれまで目標としていた到達点を極めたとみなされていました。頂点を極めた後、美術はどう発展するのか。その問題に直面したのが、16世紀中頃、マニエリスムと呼ばれる時代の美術家たちです。ローマ劫掠や宗教改革に起因する先の見えない不安な時代、最盛期のその先を模索した画家たちの葛藤を紹介します。

パルミジャニーノ《長い首の聖母》(1534-40) フィレンツェ ウフィツィ美術館所蔵

### 久保寺 紀江 KUBOTERA Norie

和光大学非常勤講師。専門は西洋美術史。16世紀イタリアの美術史家であるジョルジョ・ヴァザーリの著書『美術家列伝』を中心に、1500年代のイタリア美術界の動向を書簡などから調査研究することに興味を持っている。共訳に『世界の素描1000の偉業』(ヴィクトリア・チャールズ、クラウス H. カール著、籾山昌夫監修/二玄社)など。

## 3. 1960年代 — 高揚する日本戦後前衛芸術

1960年代、日本の芸術は前衛芸術運動という新たなる動きをあらわにしていきます。美術館や画廊を飛び出した〈ハイレッド・センター〉や〈ゼロ次元〉などグループによる街頭表現はもとより、土方巽率いる〈暗黒舞踏派〉、集団即興を展開した〈グループ・音楽〉、学生映画から出現したニューウェーブの映画作家たちなどです。これらの動きはさまざまに交差をしながら、新左翼運動の潮流とともに巻き起こりました。この講座では現在の研究の進展を紹介しつつ、この時代を振り返っていきます。

ハイレッド・センター《首都圏清掃整理促進運動》(1964)
写真:平田実、© HM Archive / Courtesy of amanaTIGP

### 細谷 修平 HOSOYA Shuhei

和光大学客員研究員。専門は日本近現代美術史。アーティストの活動に関わる聞き取りや調査、記録を通して、アート・ドキュメンテーションを行っている。おもには1960年代の芸術と政治、メディアを研究テーマとする。編著に『メディアと活性—What's media activism?』(インパクト出版会)など。

## 4. 北斎 — 90年の画業の軌跡

葛飾北斎(1760〜1849)は江戸(現在の墨田区)に生まれ、浮世絵師として20歳でデビューしてから90歳で没するまで、旺盛な創作活動を展開しました。生涯を通じてとどまることなく新しい表現の可能性を追求し、そのひとつの到達点である「神奈川沖浪裏」などを含む「冨嶽三十六景」が制作されたのは72歳頃からのことでした。講座では初作から最晩年期作まで北斎の画業の軌跡を辿り、北斎の挑戦と努力、そこから生み出された北斎絵画の魅力に迫ります。

葛飾北斎《冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(1831-34頃)
メトロポリタン美術館所蔵

### 山本 ゆかり YAMAMOTO Yukari

和光大学非常勤講師。専門は日本美術史、日本近世絵画史。「上方風俗画の研究」で博士号を取得。上方の展開を視野に入れつつ、江戸の風俗画・浮世絵にも深い関心を寄せる。著書に『上方風俗画の研究』(藝華書院)、『春画を旅する』(柏書房)など。

※ 講座内容が変更となる場合がございます。

**申込み受付期間:2022年9月16日(金)〜10月10日(月)まで**

**一般の方の申込み先:小田急まなたびウェブサイト**

小田急まなたびウェブサイトの「カテゴリー 一覧」⇒「和光大学公開講座」を選んでアクセス!

受講料のお支払いは、クレジットカード1回払いのみとなります。

- 一般のクレジットカード(JCB、Visa、Mastercard®)の方:2,000円(全4回)
- OPクレジットカード会員価格:1,800円(全4回、割引価格)

※ キャンセル条件B:変更、取消、払い戻しはできません。

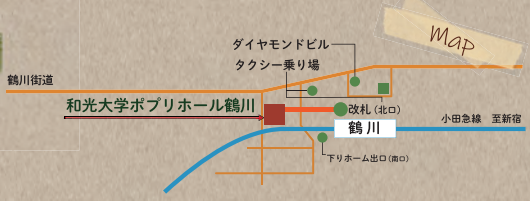
**学生の方の申込み先:和光大学 企画係 大学開放フォーラム**

メールの件名を「連続市民講座2022 学生申込み」とし、本文に ① **氏名(フリガナ)**、② **郵便番号・住所**、③ **携帯番号**、④ **学校名(学部、学科)**を明記の上、open@wako.ac.jp までお申込みください。

※ 当日は学生証をご持参し、受付でご提示ください。

**講座に関するお問い合わせ先**

和光大学 企画係 大学開放フォーラム

044-988-1433　open@wako.ac.jp

※ 電話でご連絡が可能な時間帯は、月〜金 / 9:00〜16:30です。